

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府下を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府域における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、2020年度は京丹後市、綾部市、宮津市、舞鶴市を中心に、歴史学科教員を代表とする共同研究をおこなった。これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外で調査が進められている。こうしたフィールド調査成果の概要を、歴史学科では『フィールド調査集報』として刊行しており、本書はその第7号にあたる。

歴史学科では、文献史学・考古学・地理学・文化情報学・建築史学といった分野から、古文書・建造物・石造物・遺跡・景観といった多様な文化遺産の調査をおこなっている。なかでも本学科の特徴は、例えば寺院の調査であれば文献史学と建築史・考古学というように、分野融合型の調査を積極的に実施している点にある。さらに、博物館等での展示協力や地域住民に対する報告会など、研究成果の活用・社会的還元も積極的に行っている。

また、こうした調査は内部で終わることが多く、成果も個別の教員の元で保管されることが多い。歴史学科では年間の活動成果をまとめることで、調査活動およびその活用事例の公開・提示をおこない、研究・教育の成果の還元を努めている。

本書は4部から構成されている。第Ⅰ部と第Ⅱ部は歴史学科教員を中心として各地で実施している地域の歴史と文化遺産の調査についての報告である。第Ⅰ部は京都府内、第Ⅱ部は京都府外の諸地域を対象としている。第Ⅲ部は歴史学科が協力している市史・町史編纂事業（京田辺市史・和束町史）に関わる調査の速報である。第Ⅳ部は歴史学科の学部生を主な対象として実施している文化遺産フィールド研修の報告を収録している。

本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。